

平成 21年 4月 30日現在

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530427

研究課題名（和文） 居住条件不利地域におけるコミュニティの再生に関する研究

研究課題名（英文） A study about the reorganization of the community in the disadvantage district

研究代表者 叶堂 隆三（KANADO RYUZO）

下関市立大学・経済学部・教授

研究者番号：50224580

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：コミュニティ、条件不利地区、地域再生

### 1. 研究計画の概要

本研究は、山間丘陵地域の農山村や離島地域、都市における急傾斜丘陵地域、災害被災地域など、地理的条件や交通条件等が悪く、人びと、とりわけ高齢者や障害者の日常生活の維持や移動に支障が生じやすい地域を「居住条件不利地域」「居住条件不利地区」という概念で捉えて、そうした地域・地区で暮らす人びとの生活構造、地域文化やコミュニティの構造を明らかにした上で、居住条件不利地域・地区における住民生活とコミュニティの維持・再生方策を探るとともに、政策提言を行なっていくことを目的とする。

### 2. 研究の進捗状況

初年度の2006年度は調査対象地の選定を目的として、長崎県長崎市・佐世保市、福岡県行橋市、広島県呉市・尾道市、香川県土庄町（豊島）、香川県上勝町を候補地として選定して、各地域を訪問し、行政機関および地元住民代表への聞き取りおよび資料の収集を行なった。2年目の2007年度は、そうして選定した長崎市・呉市・尾道市・土庄町において行政機関および地元住民代表、地域組織等へ聞き取り調査と資料の収集を実施した。

3年目の2008年度は、各分担による調査を展開した。とりわけ主要な研究対象地とし広島県呉市と長崎県長崎市を位置づけた。呉市は斜面地域および外国人集住地区、長崎市は斜面地域を研究対象地区とし、とりわけ両市において斜面地に居住する住民調査を実施することを目的とした。そして広島県呉市の斜面地区を2008年度の住民調査対象地として位置づけ、調査票調査案を地元住民

の代表とともに検討した後に修正した調査票を用いて、呉市両城地区の住民（世帯）を対象にした調査票調査を実施した。さらに同地区において実施した調査票調査で十分に把握しきれなかった斜面地居住の地域住民の詳細な生活状況に関して、個別の世帯を20世帯程度選定して、訪問聞き取り調査を実施した。

さらに4年目の2009年度に調査票調査を予定している長崎市の斜面地区2箇所に関して、長崎市役所において聞き取り調査および調査協力を依頼するとともに調査対象地区の一つを訪問して、調査票調査の実施に向けた地元住民代表との打ち合わせおよび聞き取り調査を実施した。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

本研究における調査活動は、当初の研究計画に従っておおむね順調に進展している。研究成果がやや少ないが、最終年度の本年度および次年度以降に順次発表できると考えている。

### 4. 今後の研究の推進方策

2008年度に実施した呉市の斜面地区調査のデータの分析を急ぐとともに、長崎市の2ヶ所で住民への調査票調査を実施し、データの集計分析を実施する。呉市の外国人集住地区および土庄調査は進捗しているため、長崎調査の分析が終了した後、これらの調査結果を合わせて報告書の作成をめざしている。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

叶堂隆三、都市・居住条件不利地区の町づくり—長崎市の斜面地における町づくりの事例—、福岡国際大学紀要第19号、査読無、2008年、75—85頁

室井研二、離島の交通とサステナビリティ—香川県豊島を事例に—、香川大学教育学部研究報告第I部130巻、査読無、2008年、21—35頁

〔学会発表〕(計 2 件)

叶堂隆三、都市の居住条件不利地域における住民生活の現状—長崎市における聞き取り調査の結果から—、山口地域社会学会第18回研究例会、2008年7月12日、山口大学

山本薫子、外国人住民増加が都市コミュニティに与えた社会的インパクト—広島県呉市を事例として—、日本都市社会学会第26回大会

〔その他〕